

福島利夫 教授 履歴・業績

福島利夫教授 履歴・業績

【履 歴】

- 1948年2月 大阪市西区に生まれる
- 学歴
- 1966年3月 大阪府立市岡高等学校卒業
- 1970年3月 大阪市立大学経済学部経済学科卒業
- 1975年3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程（理論経済学・経済史学専攻）修了
- 1978年3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程（理論経済学・経済史学専攻）単位取得満期退学
- 職歴
- 1971年4月 財団法人京都教育文化センター職員（～1972年6月）
- 1978年4月 大阪経済法科大学経済学部専任講師
- 1988年4月 関西大学経済学部非常勤講師（～1990年3月）
- 1989年4月 大阪経済法科大学経済学部助教授
- 1990年4月 奈良女子大学家政学部非常勤講師（～1990年9月）
- 1994年7月 高知短期大学社会科学部非常勤講師（集中講義）
- 1995年4月 大阪経済法科大学経済学部教授
- 1997年4月 専修大学経済学部教授（現在に至る）
- 1997年4月 法政大学日本統計研究所客員研究員（現在に至る）
- 1998年9月 京都府立大学福祉社会学部非常勤講師（集中講義）
- 1998年10月 朝鮮大学校経営学部非常勤講師（～1999年3月，以下2002年度まで毎年度・後半期）
- 1999年4月 中央大学経済学部非常勤講師（～2000年3月）
- 2002年4月 立教大学経済学部非常勤講師（～2003年3月）
- 2004年3月 長期在外研究員（～2005年3月，スウェーデン，ストックホルム大学）
- 2005年4月 朝鮮大学校経営学部非常勤講師（～2006年3月）
- 2012年9月 経済学部長（～2014年8月）
- 学会
- 1978年7月 経済統計学会会員（現在に至る）
理事，機関誌編集委員，関西支部事務局長，関東支部事務局長など歴任
- 1982年10月 経済理論学会会員（同）
幹事，機関誌編集委員など歴任
- 1985年11月 経済教育学会会員（同）
- 1989年10月 社会政策学会会員（同）
- 1990年7月 日本統計学会会員（同）
- 1993年8月 International Association for Official Statistics 会員（同）
- 2015年5月 過労死防止学会会員（同）

【業 績】

【著書】

- 平野喜一郎・尼寺義弘・島津秀典・角田修一編『経済原論』（共著，執筆「貨幣の資本への転化」，「絶対的剰余価値」）青木書店 1982年
- 大橋隆憲・奈倉道隆・小川和憲・福島利夫『図説 日本の社会福祉』（共著，執筆「主要社会経済指標・社会福祉財政」，「児童・婦人・母（父）子福祉」，「障害者福祉」，「国際比較」）法律文化社 1984年
- 横越英一編『現代国家の諸相』（共著，執筆「階級論と階級構成論」）昭和堂 1985年
- 大橋隆憲・奈倉道隆・小川和憲・福島利夫『図説 日本の社会福祉』第2版（共著，執筆「主要社会経済指標・社会福祉財政」，「児童・婦人・母（父）子福祉」，「障害者福祉」，「国際比較」）法律文化社 1985年
- 柿本国弘・福島利夫他編『現代日本経済論』（共編著，執筆「経済大国と福祉小国」）青木書店 1988年
- 大阪経済法科大学経済研究所編『経済学名著106選』（共編著，執筆「エンゲル著『ベルギー労働者家族の生活費』」）青木書店 1989年
- 大阪自治体問題研究所編『府民生活データブック—衛星都市版—』（共編著）1990年
- 野澤正徳・木下滋・大西広編『自立と協同のシステム』（共著，執筆「もうひとつの社会保障」）大月書店 1991年
- 東井正美・森岡孝二編『日本経済へのアプローチ』（共著，執筆「危機に立つ社会保障」）ミネルヴァ書房 1992年
- 岩井浩・泉弘志・良永康平編『情報化社会の統計学』（共著，執筆「生活と福祉の統計」）ミネルヴァ書房 1992年
- 木下滋・土居英二・森博美編『統計ガイドブック 社会・経済』（共著，執筆「社会保障」）大月書店 1992年
- 大阪経済法科大学創立20周年記念論文集『世界経済と日本経済』（共著，執筆「労働時間の国際比較と労働時間統計」）大阪経済法科大学出版局 1992年
- 法政大学日本統計研究所，伊藤陽一・岩井浩・福島利夫編『労働統計の国際比較』（共編著，執筆「労働時間」）梓出版社 1993年
- 野澤正徳先生還暦記念論文集『経済統計学の現代化』（共著，執筆「豊かさの指標と国際比較」）晃洋書房 1995年
- 横本宏・杉森滉一編『エレメンタル 経済統計』（共著，執筆「統計調査のしくみ」）英創社 1995年
- 坂寄俊雄編『図説 日本の社会保障』（共著，執筆「わが国の労働・生活条件と社会保障」，「所得保障」）法律文化社 1996年
- 木下滋・土居英二・森博美編『統計ガイドブック 社会・経済』第2版（共著，執筆「社会保障」）大月書店 1998年
- 岩井浩・泉弘志・良永康平編『情報化社会の統計学』改定版（共著，執筆「生活と福祉の統計」）ミネルヴァ書房 1998年
- 岩井浩・藤岡光夫・良永康平編『統計学へのアプローチ』（共著，執筆「福祉」，「度数分布と代表値」）ミネルヴァ書房 1999年
- 岩井浩・福島利夫・藤岡光夫編『現代の労働・生活と統計』（共編著，執筆「社会保障・社会福祉の日本的構造」）北海道大学図書刊行会 2000年

社会福祉辞典編集委員会『社会福祉辞典』（共編著，執筆項目「寄与度・寄与率」，「厚生統計」，「国民生活基礎調査」，「国民負担率」，「ジェンダー統計」，「相加平均（算術平均）」，「相乗平均（幾何平均）」，「統計的パターン分析法（SPA法）」，「統計の信頼性・正確性」，「特化係数」，「比率」，「平均（代表値）」）大月書店 2002年

独立行政法人国立女性教育会館・伊藤陽一・杉橋やよい編『男女共同参画統計データブックー日本の女性と男性ー2003』（共著，執筆「社会保障と社会福祉」）ぎょうせい 2003年

近昭夫・岩井浩・福島利夫・木村和範編『現代の社会と統計』（共編著，執筆「日本の社会保障・社会福祉」）産業統計研究社 2006年

独立行政法人国立女性教育会館・伊藤陽一編『男女共同参画統計データブックー日本の女性と男性ー2009』（共著，執筆「人口」）ぎょうせい 2009年

岩井浩・福島利夫・菊地進・藤江昌嗣編『格差社会の統計分析』（共編著，執筆「格差・貧困社会と社会保障」）北海道大学出版会 2009年

レグランド塚口淑子編『「スウェーデン・モデル」は有効か』（共著，執筆「数字でみるスウェーデン社会とジェンダー」）ノルディック出版 2012年

独立行政法人国立女性教育会館・伊藤陽一編『男女共同参画統計データブックー日本の女性と男性ー2012』（共著，執筆「人口」）ぎょうせい 2012年

宮寄晃臣・兵頭淳史編『ワークフェアの日本の展開』（共著，執筆「貧困・不安定就業と生活保障システム」）専修大学出版局 2015年

中村浩爾・桐山孝信・山本健慈編『社会変革と社会科学ー時代と対峙する思想と実践』（共著，執筆「社会変革と統計学」）昭和堂 2017年

【訳書】

ハリー・マグドフ著，大阪経済法科大学経済研究所訳『帝国主義』（共訳，執筆「経済学の神話と帝国主義」）大月書店 1981年

ドイツ社会主義統一党付属社会科学研究所編，大阪経済法科大学経済研究所訳『西ドイツ国家独占資本主義』下巻（共訳，執筆「国家独占的搾取体制」）昭和堂 1983年

R. ビーン編，法政大学日本統計研究所・伊藤陽一・杉森滉一他訳『国際労働統計』（共訳，執筆：P. プライトン「労働時間」）梓出版社 1990年

イアン・ゴフ著，小谷義次他訳『福祉国家の経済学』（共訳，執筆「社会的支出の拡大」，「福祉国家と資本主義経済」）大月書店 1992年

D. ドーリング，S. シンプソン編，岩井浩・金子治平・近昭夫・杉森滉一監訳『現代イギリスの政治算術』（共訳，執筆「貧困を計算する」）北海道大学図書刊行会 2003年

スウェーデン中央統計局編，福島利夫訳『スウェーデンの女性と男性 ジェンダー平等のためのデータブック 2006』ノルディック出版 2008年

【調査報告書】

大阪自治体問題研究所・スウェーデン研究会『スウェーデンの地方都市を訪れて』（ワープロ版，編集代表）1992年

平成13年度内閣府委託調査『性別データの収集・整備に関する調査研究報告書』（共著，執筆「貧困・社会保

障・福祉) 国立女性教育会館 2002年

【論文】

- 「労働時間の短縮と余暇に関する一考察」京都大学修士論文 1975年3月
- 「労働者の生活時間構造と余暇」京都大学経済学会『経済論叢』第122巻第1・2号 1978年
- 「『豊かさ』と福祉指標」大阪経済法科大学『経済学論集』第4巻第1号 1979年
- 「戦後日本と国民生活の変化」大阪経済法科大学法学研究所『紀要』第10号 1989年
- 「労働時間の国際比較にみる日本社会の特質」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第70号 1992年
- 「日本の労働時間の推計」経済統計学会『統計学』第66号 1994年
- 「労働統計の諸問題」経済統計学会編『社会科学としての統計学』第3集, 産業統計研究社 1996年
- 「社会保障の制度改革と『国民負担率』」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第81号 1996年
- 「社会保障の構造と『国民負担率』」大阪経済法科大学経済研究所『経済研究年報』第16号 1997年
- 「日本型パートタイム労働の特質」阪南大学『阪南論集 社会科学編』第35巻第2号 1999年
- 「福祉統計のジェンダー問題」経済統計学会『統計学』第84号 2003年
- 「国民の負担と給付をどう考えるか」新日本出版社『経済』第128号 2006年
- 「労働と統計」(村上雅俊と共筆) 経済統計学会編『社会科学としての統計学』第4集, 産業統計研究社 2006年
- 「格差社会の現況とその行方」統計情報研究開発センター『ESTRELA』第154号 2007年
- 「格差社会の諸問題」静岡大学『経済研究』第11巻4号 2007年
- 「国民生活と統計」新日本出版社『経済』第156号 2008年
- 「『日本の経営』の見直しと格差・貧困の諸相」専修大学社会科学研究所『月報 創立60周年記念号』第562・563・564合併号 2010年
- 「統計で見る格差・貧困と失業」経済教育学会『経済教育』第29号 2010年
- 「雇用・失業構造の変化とワーキングプア」新日本出版社『経済』第190号 2011年
- 「直島と豊島をつなぐ産業廃棄物処理問題のこれまでとこれから」専修大学社会科学研究所『月報』第587・588合併号 2012年
- 「格差社会を統計から見る 1998年ごろが転機に」朝日新聞社『Journalism』第294号 2014年
- 「統計学とマルクス経済学」新日本出版社『経済』第236号 2015年

【学会発表】

- 「構造変化の中での福祉問題」経済統計学会第29回全国総会(於:立命館大学) 1986年6月
- 「労働時間の国際比較の諸問題」経済統計学会第35回全国総会(於:関西大学) 1991年10月
- 「豊かさの指標と国際比較」自治体問題研究所第21回地域・自治体問題全国研究大会・全体会(於:島根大学) 1993年3月
- 「日本の労働時間の推計」経済統計学会第37回全国総会(於:岐阜経済大学) 1993年11月
- 「労働統計の現代的課題」経済統計学会第39回全国総会(於:北海学園大学) 1995年9月
- 「書評:川上則道著『高齢化社会はこうすれば支えられる』」社会政策学会第91回研究大会・書評分科会(於:金沢大学) 1995年10月
- 「社会保障の構造と『国民負担率』」経済統計学会第40回全国総会(於:北九州市国際村交流センター) 1996年

10月

- 「福祉統計のジェンダー問題」経済統計学会第46回全国総会（於：北海学園大学）2002年9月
「スウェーデン社会のジェンダーと統計」経済統計学会関東支部例会（於：立教大学）2005年5月
「国民生活の変化と貧困，福祉をめぐる統計」経済統計学会第49回全国総会（於：立教大学）2005年9月
「格差社会と統計をめぐる諸問題」経済統計学会第50回全国研究総会（於：大阪経済大学）2006年9月
「ジェンダーと人口統計」経済統計学会第52回全国研究大会（於：桃山学院大学）2008年9月
「統計で見る格差・貧困と失業」経済教育学会第25回全国大会・全体会（於：関西大学）2009年9月
「ワーキングプアと生活保障の体系」経済統計学会第53回全国研究大会（於：北海学園大学）2009年9月
「スウェーデンのジェンダー平等統計の運動論的展開」社会政策学会総合福祉部会（於：京都府立大学）2010年2月
「リプロダクティブ・ヘルス／ライツと統計」経済統計学会第54回全国研究大会（於：大分大学）2010年9月
「社会変革と統計学」経済統計学会関東支部例会（於：立教大学）2018年1月

【書評】

- 「法政大学日本統計研究所，伊藤陽一編『女性と統計』」社会政策学会『社会政策学会年報』第39集『現代日本のホワイトカラー』御茶の水書房 1995年
「川上則道著『高齢化社会はこうすれば支えられる』」社会政策学会『社会政策叢書』第20集『弾力化・規制緩和と社会政策』啓文社 1996年
「スウェーデン統計局著，法政大学日本統計研究所訳『女性と男性の統計論』」女性労働問題研究会『女性労働研究』第34号 1998年
「スウェーデン統計局著，法政大学日本統計研究所訳『女性と男性の統計論』」専修大学社会科学研究所『社会科学年報』第33号 1999年
「成瀬龍夫著『国民負担のはなし』」総合社会福祉研究所『総合社会福祉研究』第20号 2002年
「福田泰雄著『現代日本の分配構造』」新日本出版社『経済』第86号 2002年
「小沢修司著『福祉社会と社会保障改革』」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第101号 2003年
「森岡孝二著『働きすぎの時代』」経済理論学会『季刊 経済理論』第43巻第2号 2006年
「二宮厚美著『格差社会の克服』」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第117号 2008年
「岩井浩著『雇用・失業指標と不安定就業の研究』」経済統計学会『統計学』第100号 2011年
「中村浩爾・寺間誠治編『労働運動の新たな地平』」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第140号 2016年
「野崎明編『格差社会論』」経済統計学会『統計学』第112号 2017年

【翻訳】

- I. ゴフ，A. スタインバーグ著「福祉国家，危機における資本主義」（上）大阪経済法科大学『経済学論集』第10巻3・4号 1986年
I. ゴフ，A. スタインバーグ著「福祉国家，危機における資本主義」（下）大阪経済法科大学『経済学論集』第12巻3・4号 1989年

【シンポジウム報告】

- 「労働者の自立とは何か」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第50号 1986年

「真の『豊かさ』と社会保障」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第59号 1989年
「統計で発見する日本の格差—その量と質を問う—」専修大学社会科学研究所『月報』第645号 2017年

【追悼文】

「見田石介先生の遺訓」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第14号 1976年
「坂寄俊雄先生と社会保障・人口高齢化研究」経済統計学会『統計学』第73号 1997年
「木下滋会員の間像と学問」経済統計学会『統計学』第75号 1998年

【その他】

「『資本論』の課題と方法—見田石介著作集の刊行に寄せて—（経済学の立場から）」京大生活協同組合院
生理事会『創意』第4号 1977年
解題<総務庁統計局編『平成2年 国勢調査報告』>大阪経済法科大学図書館『レファランス・レビュー』第
9号 1994年
「児童手当」日本子どもを守る会編『子ども白書』1996年版, 草土文化 1996年
「児童の手当問題」日本子どもを守る会編『子ども白書』1997年版, 草土文化 1997年
「『国民負担率』」新日本出版社『経済』第60号 2000年
「児童手当」新日本出版社『経済』第60号 2000年
「国の子育て支援・保育の財源はどうなっているか」総合社会福祉研究所『福祉のひろば』2005年11月号 2005
年
経済理論学会第55回大会共通論題「<格差社会>をどうみるか」の「報告へのコメント」経済理論学会『季刊
経済理論』第45巻第1号 2008年
専修大学社会科学研究所・創立60周年記念公開シンポジウム「今、なぜ『資本論』なのか」第2回「今日の貧
困と『資本論』（伍賀一道報告）」への「コメント」専修大学社会科学研究所『月報 創立60周年記念号』第
562・563・564合併号 2010年
「都道府県別でみる人口減少社会」『地方財務』第696号, ぎょうせい 2012年
特集「ベーシック・インカム論の諸相—これからの日本社会を展望して」の「特集にあたって」（編集担当）
経済理論学会『季刊 経済理論』第49巻第2号 2012年
「『資本論』のかじり方」新日本出版社『経済』第224号 2014年
「エンゲル雑感」経済統計学会『労働統計研究部会報』第29号 2016年